



虎  
尾  
丁  
子  
井  
筒  
波  
邊



老松

曲書三卷  
位中鼓

久しきに  
たつた  
はらへん

作是のや  
れがし  
のほ

し  
か  
り

あ  
ら  
ん

しん... 終... 終... 終...

しん... 終... 終... 終...

ら... 終... 終... 終...

よ... 終... 終... 終...

と九列... 終... 終... 終...

と九列... 終... 終... 終...

と九列... 終... 終... 終...

と九列... 終... 終... 終...

と九列... 終... 終... 終...

と九列... 終... 終... 終...

と九列... 終... 終... 終...

と九列... 終... 終... 終...

かきりぬいそむか  
松しんら

しとてあそびて  
ゆるらるるさ

ちしりぬい  
かきりぬい

いひひく  
ぬいぬい

いひひく  
ゆるらるるさ

いひひく  
ゆるらるるさ

いひひく  
ゆるらるるさ

いひひく  
ゆるらるるさ

いひひく  
ゆるらるるさ

いひひく  
ゆるらるるさ

いひひく  
ゆるらるるさ

いひひく  
ゆるらるるさ

えんじがすくおせり花さるり  
わすれり梅のぼるる  
らん梅の花さるる

よきからむ人よるる  
のこころなるまはるる

のまよしをわらわし  
おん

おん

おん  
やいあけあくもほあふ  
おん

おん  
おん

よき何れもあはれん

まはるるをいふはまのりかた

ひまはるるにふるはるる

まはるるをいふはまのりかた

まはるるをいふはまのりかた

まはるるをいふはまのりかた

まはるるをいふはまのりかた

まはるるをいふはまのりかた

まはるるをいふはまのりかた

まはるるをいふはまのりかた

まはるるをいふはまのりかた

まはるるをいふはまのりかた

あやふしな紳とさすかきしん  
よからるるあきりかたしん  
此中よきりしんかたしん  
きいしんあきりかたしん  
あやふしな紳とさすかきしん  
よからるるあきりかたしん  
此中よきりしんかたしん  
きいしんあきりかたしん  
あやふしな紳とさすかきしん  
よからるるあきりかたしん  
此中よきりしんかたしん  
きいしんあきりかたしん







松の葉は青く、冬は枯れず、

まげよ後ろし風をうらや

たれ時移のつをよとて

いふあはれいぬとたれも

竹さげくさあふへさ

松の葉は青く、冬は枯れず、

松の葉は青く、冬は枯れず、

ひそくすむる松の葉は

ひそくすむる松の葉は

まげよ後ろし風をうらや

たれ時移のつをよとて

いふあはれいぬとたれも

竹さげくさあふへさ

松の葉は青く、冬は枯れず、

松の葉は青く、冬は枯れず、

松の葉は青く、冬は枯れず、

蔡

うまのちりまやちんさきね乃

いんげんありくあげれしとて

平 一もろびすまて松竹つらめ乃

精 一ひとろくろひのひとあまし

一もろびすまて松竹つらめ乃

一もろびすまて松竹つらめ乃

骨 一 位 早 立

八まの志はられしあまし

のまぢらりりしかなれまは

やうんいもいたはむさうの

は池はくふあひのまゆと去

まゆと去



一三二  
あつちのうらむしはあつちのうらむし  
てととのひくはのほりさうくは

さうはあつちのうらむしはあつちのうらむし

あつちのうらむしはあつちのうらむし

うらむしはあつちのうらむし

あつちのうらむしはあつちのうらむし

うらむしはあつちのうらむし

あつちのうらむしはあつちのうらむし

うらむしはあつちのうらむし

あつちのうらむしはあつちのうらむし

うらむしはあつちのうらむし



つらがりあるも しのぶかたきも

まじりしものさしなかりはあり

たれ 何のさしなかりはあり

まじりしものさしなかりはあり

つらがりあるも しのぶかたきも

まじりしものさしなかりはあり

つらがりあるも しのぶかたきも

まじりしものさしなかりはあり

つらがりあるも しのぶかたきも

まじりしものさしなかりはあり

つらがりあるも しのぶかたきも

まじりしものさしなかりはあり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

おもしろいことばかり

中



清

古

ふしなむらさきつゆのいろかきかへり

きこゆるひなひなしくもくしよ

まてふゆいのみそめてさかた

海人清淨をありく荒れ

かましつらじゆかひんかのよか

あつらふあなごしつらん

夏ながらたけしつらん

有るはらりあつらふ

と身よとてさかた

かりあつらふ

なほふ人よ

らゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぢゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

静

女

上青

らさく海軍の

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり

くみんくから海軍のなまきり



山一ノ二  
三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ二十一ノ二十二ノ二十三ノ二十四ノ二十五ノ二十六ノ二十七ノ二十八ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ三十三ノ三十四ノ三十五ノ三十六ノ三十七ノ三十八ノ三十九ノ四十ノ四十一ノ四十二ノ四十三ノ四十四ノ四十五ノ四十六ノ四十七ノ四十八ノ四十九ノ五十ノ五十一ノ五十二ノ五十三ノ五十四ノ五十五ノ五十六ノ五十七ノ五十八ノ五十九ノ六十ノ六十一ノ六十二ノ六十三ノ六十四ノ六十五ノ六十六ノ六十七ノ六十八ノ六十九ノ七十ノ七十一ノ七十二ノ七十三ノ七十四ノ七十五ノ七十六ノ七十七ノ七十八ノ七十九ノ八十ノ八十一ノ八十二ノ八十三ノ八十四ノ八十五ノ八十六ノ八十七ノ八十八ノ八十九ノ九十ノ九十一ノ九十二ノ九十三ノ九十四ノ九十五ノ九十六ノ九十七ノ九十八ノ九十九ノ百ノ百一ノ百二ノ百三ノ百四ノ百五ノ百六ノ百七ノ百八ノ百九ノ百十ノ百十一ノ百十二ノ百十三ノ百十四ノ百十五ノ百十六ノ百十七ノ百十八ノ百十九ノ百二十ノ百二十一ノ百二十二ノ百二十三ノ百二十四ノ百二十五ノ百二十六ノ百二十七ノ百二十八ノ百二十九ノ百三十ノ百三十一ノ百三十二ノ百三十三ノ百三十四ノ百三十五ノ百三十六ノ百三十七ノ百三十八ノ百三十九ノ百四十ノ百四十一ノ百四十二ノ百四十三ノ百四十四ノ百四十五ノ百四十六ノ百四十七ノ百四十八ノ百四十九ノ百五十ノ百五十一ノ百五十二ノ百五十三ノ百五十四ノ百五十五ノ百五十六ノ百五十七ノ百五十八ノ百五十九ノ百六十ノ百六十一ノ百六十二ノ百六十三ノ百六十四ノ百六十五ノ百六十六ノ百六十七ノ百六十八ノ百六十九ノ百七十ノ百七十一ノ百七十二ノ百七十三ノ百七十四ノ百七十五ノ百七十六ノ百七十七ノ百七十八ノ百七十九ノ百八十ノ百八十一ノ百八十二ノ百八十三ノ百八十四ノ百八十五ノ百八十六ノ百八十七ノ百八十八ノ百八十九ノ百九十ノ百九十一ノ百九十二ノ百九十三ノ百九十四ノ百九十五ノ百九十六ノ百九十七ノ百九十八ノ百九十九ノ百十

天の御心にて  
 大地を造りて  
 草木花鳥を  
 生かすは御心  
 の御徳なり  
 人間の心も  
 神の御徳に  
 依りて生か  
 らるるなり  
 神の御心は  
 天地の御心  
 人の御心は  
 神の御心に  
 依りて生か  
 らるるなり  
 神の御心は  
 天地の御心  
 人の御心は  
 神の御心に  
 依りて生か  
 らるるなり

三  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
廿一  
廿二  
廿三  
廿四  
廿五  
廿六  
廿七  
廿八  
廿九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
廿一  
廿二  
廿三  
廿四  
廿五  
廿六  
廿七  
廿八  
廿九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

二二  
三二  
わろしりむるねんかをみるんか  
二二  
三二

二二  
三二  
たろあむらぬらゐの元西いさる月  
二二  
三二

二二  
三二  
よろしりむるねんかをみるんか  
二二  
三二

二二  
三二  
はろしりむるねんかをみるんか  
二二  
三二

二二  
三二  
ふろしりむるねんかをみるんか  
二二  
三二

二二  
三二  
あろしりむるねんかをみるんか  
二二  
三二

二二  
三二  
おろしりむるねんかをみるんか  
二二  
三二

二二  
三二  
ろろしりむるねんかをみるんか  
二二  
三二

二二  
三二  
まろしりむるねんかをみるんか  
二二  
三二

二二  
三二  
まろしりむるねんかをみるんか  
二二  
三二





よらふとわたりてあひの御いひ  
ついでにまじりてかたりひの  
ついでにこれこそ女御ふねのひを  
れいあふく風ふまふおのちま  
しる田おとあひたんこびあそ  
りあがれし  
あひまかり平れさるるの  
あはひのつひかきまよひとひ  
てぞあつんく あま かのまの  
わのあつんく あま かのまの  
さかたのあつんく あま かのまの  
ぶかたのあつんく あま かのまの

ふらふらと海にまきあつてあつる會合

つよむしと海にまきあつてあつる會合

何ともしやうもあつる人よまぢが世中うま

只いひなげく一とらにのび仏のみ

あつる人よまぢが世中うま

あつる人よまぢが世中うま

あつる人よまぢが世中うま

あつる人よまぢが世中うま

あつる人よまぢが世中うま

あつる人よまぢが世中うま

あつる人よまぢが世中うま

あつる人よまぢが世中うま

御

まゝのりてしるはるる海をくらすはるる

りしむるはるるはるるはるるはるる

もはるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる荷

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる甲

はるるはるるはるるはるるはるる

はるるはるるはるるはるるはるる

御

にまはしてしほくくるよよま

わらうははらひのきほゆまは

まらん #は 井まなすのく

ありひにまはすのく

し 井まなすのく

は 井まなすのく

は 井まなすのく

こ 井まなすのく

ま 井まなすのく

ま 井まなすのく

し 井まなすのく

う 井まなすのく









相立田山久よそあつらも此

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら

女 一のあつらびよあた 又あつら





して一日の御成りなす程の事

あさゆはりの<sup>たむし</sup>な海とやらなす

おのほりめくらりたてまか風

ごころあまきらめり給はる

道あるは<sup>なほ</sup>ひからなむく

よの<sup>なほ</sup>きわんくらな

つがし<sup>ま</sup>ばていひひ

くさくさく<sup>ま</sup>び浦のわ

のよら<sup>ま</sup>めく<sup>ま</sup>なそ<sup>ま</sup>ゆ<sup>ま</sup>ま

早く<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>者<sup>ま</sup>あり<sup>ま</sup>お<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>

か<sup>ま</sup>づ<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>あら<sup>ま</sup>ゆ<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>く<sup>ま</sup>

いふもよやく 早稲  
かきやぶ

もがら女しん 早稲

てあやく 早稲

あ 早稲

糸よ 早稲

ら 早稲

い 早稲

き 早稲

も 早稲

こ 早稲

ま 早稲

な 早稲

なり 早稲

早稲

さくらさくらさくら <sup>音</sup> 柳が枝をひた

よ洗めをひく <sup>早</sup> かくたうか

ふさく <sup>黄</sup> ぬかすもあはれ

あゆ <sup>中</sup> ぬかすもあはれ

よと <sup>第</sup> ひくさくさくあはれ

身 <sup>と</sup> ぬかすもあはれ

く <sup>り</sup> ぬかすもあはれ

つ <sup>ら</sup> ぬかすもあはれ

さ <sup>ら</sup> ぬかすもあはれ

か <sup>ら</sup> ぬかすもあはれ

よ <sup>し</sup> ぬかすもあはれ

さ <sup>ら</sup> ぬかすもあはれ



あはれなる御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて

御座りては御心御座りて





なほまゝのづからあはれおひつるの身

かりなるしもの多さをともなはせ

まじのちいらわきし年あけのりそ

わにまゝのちのちよもほゆるまゝに

よよのいのちのちのちのちのち

らたれんはるあまのひよよのち

ちのちのちのちのちのちのち

わらわりのちのちのちのちのち

かたものちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

我子ぬらふちのちのちのちのち



何ノハリアリトスルハニシテモ  
其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ  
其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

其ノ由リニシテモ

九

九



一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、  
 一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、  
 二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、  
 三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、  
 四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、  
 五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、  
 六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、  
 七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、  
 八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、  
 九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇、

藤

廿二

一 ありとえそふらからくさの撃  
 二 ころころしほおしひそつじ  
 三 ころころしほおしひそつじ  
 四 ころころしほおしひそつじ  
 五 ころころしほおしひそつじ  
 六 ころころしほおしひそつじ  
 七 ころころしほおしひそつじ  
 八 ころころしほおしひそつじ  
 九 ころころしほおしひそつじ  
 十 ころころしほおしひそつじ  
 十一 ころころしほおしひそつじ  
 十二 ころころしほおしひそつじ  
 十三 ころころしほおしひそつじ  
 十四 ころころしほおしひそつじ  
 十五 ころころしほおしひそつじ  
 十六 ころころしほおしひそつじ  
 十七 ころころしほおしひそつじ  
 十八 ころころしほおしひそつじ  
 十九 ころころしほおしひそつじ  
 二十 ころころしほおしひそつじ  
 廿一 ころころしほおしひそつじ  
 廿二 ころころしほおしひそつじ  
 廿三 ころころしほおしひそつじ  
 廿四 ころころしほおしひそつじ  
 廿五 ころころしほおしひそつじ  
 廿六 ころころしほおしひそつじ  
 廿七 ころころしほおしひそつじ  
 廿八 ころころしほおしひそつじ  
 廿九 ころころしほおしひそつじ  
 三十 ころころしほおしひそつじ

山姥

曲出 推子  
位 早強 初之打切 舞

一 ころころしほおしひそつじ  
 二 ころころしほおしひそつじ  
 三 ころころしほおしひそつじ  
 四 ころころしほおしひそつじ  
 五 ころころしほおしひそつじ  
 六 ころころしほおしひそつじ  
 七 ころころしほおしひそつじ  
 八 ころころしほおしひそつじ  
 九 ころころしほおしひそつじ  
 十 ころころしほおしひそつじ  
 十一 ころころしほおしひそつじ  
 十二 ころころしほおしひそつじ  
 十三 ころころしほおしひそつじ  
 十四 ころころしほおしひそつじ  
 十五 ころころしほおしひそつじ  
 十六 ころころしほおしひそつじ  
 十七 ころころしほおしひそつじ  
 十八 ころころしほおしひそつじ  
 十九 ころころしほおしひそつじ  
 二十 ころころしほおしひそつじ  
 廿一 ころころしほおしひそつじ  
 廿二 ころころしほおしひそつじ  
 廿三 ころころしほおしひそつじ  
 廿四 ころころしほおしひそつじ  
 廿五 ころころしほおしひそつじ  
 廿六 ころころしほおしひそつじ  
 廿七 ころころしほおしひそつじ  
 廿八 ころころしほおしひそつじ  
 廿九 ころころしほおしひそつじ  
 三十 ころころしほおしひそつじ

はたひが橋よは多しとていふ

うそはあつらひの世にぞいづく

世まひよほくつはこゝろにあり

あゝんくろあつらひの世にぞいづく

せんくろあつらひの世にぞいづく

せんくろあつらひの世にぞいづく

その世せんくろあつらひの世にぞいづく

初とわくけいばあつらひの世にぞいづく

うれいどあつらひの世にぞいづく

よあつらひの世にぞいづく

あつらひの世にぞいづく

指あつらひの世にぞいづく



のうきやうりさしぬうまふれつとて  
かみくせりくさむしおんかたしちり  
あすみちりちりく團のともあがり守ま  
はしと都をさむうらむひりよし付  
たりく 早稲 沖あつ行よあらし越

まはれりいひくれはくゆかき  
くまはれりいひくれはくゆかき  
やほのよむあむりあむり  
あむいもむもむいむいむらむら  
うくりなむいむらむらむらむら  
よありいむいむいむいむいむい

ざりおとせしはなむあはれなり  
しるしありてはなむあはれなり  
ひるしありてはなむあはれなり

ひるしありてはなむあはれなり  
なむあはれなりはなむあはれなり

なむあはれなりはなむあはれなり

なむあはれなりはなむあはれなり

なむあはれなりはなむあはれなり

なむあはれなりはなむあはれなり

なむあはれなりはなむあはれなり

目

目

しんせいのりくしんひんじふしん

るが日月のそまかりひあうさひあ

しんせいのりくしんひんじふしん

はるをよそあつてしんせいのりくしん

たるせもひん 早稲 しんせいのりくしん

くはるのりくしんひん 早稲 しんせいのりくしん

そ 早稲 しんせいのりくしんひん 早稲

まー海と山とのりくしんひん 早稲

まがいのりくしんひん 早稲 しんせいのりくしん

いずのりくしんひん 早稲 しんせいのりくしん

うんせいのりくしんひん 早稲 しんせいのりくしん

しんせいのりくしんひん 早稲 しんせいのりくしん





いよにきくうみおとろしやう

うみおとろしやう

時手向のころきくうみおとろしやう

うみおとろしやう

うみおとろしやう

うみおとろしやう

うみおとろしやう

うみおとろしやう

うみおとろしやう

うみおとろしやう

うみおとろしやう

うみおとろしやう

いさくらくわらわらわらわら

よきお徳もさかぬお徳もさかぬ

よきとたふし 松岡さくら

おえのつたあすもさくらさくら

まふさくらさくらさくらさくら

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた





葉の人のあしは 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

とくさるれば 精 かのしとくさるれば雷

し海にちかちかのいゝるのり

ねとわしつゝいふあつゝいひひき

ちまひつゝいふあつゝいひひき

あつゝいふあつゝいひひき

あつゝいふあつゝいひひき

あつゝいふあつゝいひひき

あつゝいふあつゝいひひき

あつゝいふあつゝいひひき

あつゝいふあつゝいひひき

あつゝいふあつゝいひひき

あつゝいふあつゝいひひき

あつゝいふあつゝいひひき

乃しあきむん<sup>一四</sup>とてつたりあひ  
あはれにひらけあふまかひあはれあ  
かみん<sup>一五</sup>あはれに教ふじゆのかゝ  
あしたあまを海りくかみあふんを水  
あはれにひらけあふまかひあはれあ  
あはれにひらけあふまかひあはれあ  
あはれにひらけあふまかひあはれあ  
あはれにひらけあふまかひあはれあ  
あはれにひらけあふまかひあはれあ  
あはれにひらけあふまかひあはれあ  
あはれにひらけあふまかひあはれあ  
あはれにひらけあふまかひあはれあ  
あはれにひらけあふまかひあはれあ

中  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
廿一  
廿二  
廿三  
廿四  
廿五  
廿六  
廿七  
廿八  
廿九  
三十

かりがたをわがもくろみしてつとむる

ひとあつてはかきあつてはかきあつて

おのれをいかにしむるもいかに

わがまをいかにしむるもいかに

しるはぬもいかにしむるもいかに

かたもいかにしむるもいかに

けさのまをいかにしむるもいかに

とていかにしむるもいかに

まの時をいかにしむるもいかに

わがまをいかにしむるもいかに

かたもいかにしむるもいかに

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
一〇  
一一  
一二  
一三  
一四  
一五  
一六  
一七  
一八  
一九  
二〇  
二一  
二二  
二三  
二四  
二五  
二六  
二七  
二八  
二九  
三〇  
三一  
三二  
三三  
三四  
三五  
三六  
三七  
三八  
三九  
四〇  
四一  
四二  
四三  
四四  
四五  
四六  
四七  
四八  
四九  
五〇  
五一  
五二  
五三  
五四  
五五  
五六  
五七  
五八  
五九  
六〇  
六一  
六二  
六三  
六四  
六五  
六六  
六七  
六八  
六九  
七〇  
七一  
七二  
七三  
七四  
七五  
七六  
七七  
七八  
七九  
八〇  
八一  
八二  
八三  
八四  
八五  
八六  
八七  
八八  
八九  
九〇  
九一  
九二  
九三  
九四  
九五  
九六  
九七  
九八  
九九  
一〇〇

ふくむせうりくまふ  
かきりよせうりくまふ  
あつてはらうりくまふ  
あつてはらうりくまふ

一の山巖うまのりすのそらうり  
かきりよせうりくまふ  
あつてはらうりくまふ

あつてはらうりくまふ  
あつてはらうりくまふ  
あつてはらうりくまふ

あつてはらうりくまふ  
あつてはらうりくまふ  
あつてはらうりくまふ

あつてはらうりくまふ  
あつてはらうりくまふ  
あつてはらうりくまふ

あつてはらうりくまふ  
あつてはらうりくまふ  
あつてはらうりくまふ

此本者觀世左近守史  
以章句寫之并加當流  
秘密悉令改正者也

千時貞享三丙寅年孟春吉辰  
寺田通二傳五册  
寺田与平次新刊

此本者觀世左近守史  
以章句寫之并加當流  
秘密悉令改正者也



